



楽しい絵手紙

こんにちは。八女警察署です。⑱



皆様、新年あけましておめでとうございます。八女警察署生活安全課防犯係の内野と申します。今月号では、現在、非常に深刻な問題となっている「ニセ電話詐欺」についてお話します。昨年、福岡県内ではニセ電話詐欺の被害額が約18億円となり過去最悪の被害が出ました。八女警察署管内でもオレオレ詐欺や還付金詐欺などで被害が出ました。八女警察署におきましても、老人会や各種キャンペーン等における広報活動、F M八女の協力による防災ラジオを活用した広報活動など各種対策を講じてきましたが、まだまだ十分ではありません。

最近のニセ電話詐欺の手口としては、息子などをかたり、「会社のお金を使い込んだ。すぐに返さないと会社をクビになる。」などと言って、県外の遠方まで現金を持って来させて騙し取る「現金受取り型の手口」が増加しています。

今年も引き続き八女警察署では、ニセ電話詐欺撲滅に向けて対策を強化してまいりますので、ご協力をお願いします。

健康万歳 ⑳ 冬場の感染症対策

11月末頃より年明け1～2月にかけてインフルエンザの流行時期を迎える。通常A型(香港型とソ連型)とB型のウイルスによる呼吸器感染症だが、いずれも1～2日間の潜伏期の後に突然38度以上の高熱と頭痛、咽頭痛、咳などの風邪症状が出る。

単なる風邪は発熱や咳も軽微なことが多く、3日ほどの安静で軽快することが多い。昔の人は「甘酒でも飲んで3日寝ておれば治る」と言ったが的を射ていると言ってよい。一時的にクスリで症状を押さえ込むのは寧ろ病気を長引かせる結果になる。殆どがウイルス感染なので抗生物質の効き目はない。

高熱であればインフルエンザを疑ったが良い。簡単なテストで感染が何型か判定できて服薬などで対応すれば1週間程度で完治するが多いが、高齢者や乳幼児などの生活弱者では細菌による二次感染を起こすこともあるので特に注意を要する。

最近の統計では高齢者の肺炎による死亡率が高くなっているのも注目すべきである。予防接種は早めに済ませておいたが良い。

鳥インフルエンザも時に話題になることがあるが鳥から人への感染はあっても人から人への感染は限定的である。

予防の為のうがいやマスクは余り当てにならない。頻繁な手洗いは効果があるが、流行時期には人混みの中は避けることだ。

また、この時期になるとノロウイルスによる集団食中毒、嘔吐や下痢など特に高齢者施設などで猛威を振るう。おむつ交換時などの衛生面での不注意から爆発的に感染が広がる。健康な成人であればさして問題にならないが、抵抗力の無い老人では肺炎を併発し死に至ることも稀ではない。食品加熱。手洗い、調理器具などの消毒を怠らずに、汚物処理の際にはゴム手袋使用などで注意して行なうことが肝腎である。この場合にはマスクが有効である。消毒にはハイターやブルーチの他、噴霧用も市販されている。発症したら脱水を起こし易いので体液管理を忘れずに。

林 栄一(医師・八女市立花町)

野鳥ウォッチング ㉑ オシドリ

毎年10月頃になると日向神ダムに数十羽のオシドリがやってきます。

水生昆虫も食べますが、大好物はドングリやカシの実です。夕暮れ時になると広葉樹林のある森へと移動します。

「クエ、クエ」と鳴き非常に敏感な鳥です。

矢部村 栗原 浩暢



「今伝えたい感動!自分の心を打った!...とその一コマを切り取って一枚の作品を完成させましょう」と先生に教えていただきましたがなかなか思う様に描けません。真剣に描く物と対話し見つめながら「へたでいい、へたがいい」の絵手紙の心に後押しされ何とか教室の皆さんの後を追いかけてながらがんばっています。



筑後市西牟田 田島 すがき

演習林体験実習

八女農業高等学校

昨年11月に黒木町の本校演習林で、1年生全員で間伐や下草刈りを行いました。本校演習林は1940年に生徒及び職員によって植林され、1951年本校創立50周年記念事業として同窓会で購入しています。午前中は黒木町中央公民館で、ふくおか森林インストラクター会の方から、森林の役割や役目の講義をしていただきました。午後からは演習林に入り実習を行いました。女子生徒は、長鎌を使ってシダやいばら等の下草を丁寧に刈っていき、男子生徒は、チェーンソーや鋸を使って間伐をしました。初めて間伐をするので、切り方や間伐方法を八女森林組合の方から教わりながら行いました。同窓会やPTAの方々も多数参加されて一緒に山の手入れをすることができました。



講義の様子(黒木町中央公民館)



チェーンソーによる間伐作業



長鎌による刈払い様子

1月の校内販売所(みらい館)の開館日

5日(火)、12日(火)、15日(金)、19日(火)、22日(金)、26日(火)、29日(金)

販売時間は、10時30分～12時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしております。

馬場ゆかり・由美子姉妹 カレンダープレゼント

昨年も健闘よく私たちを楽しませてくれた八女市出身のプロゴルファー馬場ゆかり選手と妹由美子選手のオリジナルカレンダーを抽選で10名の方へプレゼントします。ご希望の方はハガキに住所、氏名を明記の上、東兄弟迄(応募多数の場合は抽選)応募締め切り 1月10日

(※直接弊社に受け取りに来られる方限定とさせていただきます。当選者にはハガキで通知します)



「年賀状は贈り物です」郵便局からの粋なメッセージである。書くのは苦になるが読む時は多いほど嬉しいのが年賀状。「賀状入れポトリと春の着いた音」安達昇。今年もずつしりと重い朝刊と年賀状の束で幕を開けた。ほろ酔い気分を目を通す時、生きていく、日本人でよかったと思う至福の時である。ゆつくりとめくる賀状の中にとっさに思い出せない差し出し人を発見する。妻に指摘されてツアアで出会った人だと気づく。旅の思い出が静かに蘇ってくる。一方、年末に遺族から届いた喪中のあいさつを見ると生前にもっと会って話をして聞いておけばよかったと悔やまれる。「二期一会」という言葉がある。茶道では今日の言葉は生涯二度とないかも知れない。だからいつ誰に対しても準備を整えて真心をこめて迎えなければならぬという教えである。これは茶事に限ることではない。相手の顔を思いながら賀状を手にする時、共に過ごした人との場面が浮かんでき

てなつかしい。どの人との出会いも今の自分に何らかの影響を与えている。人間として成長する途中であつては別れた人がどんな人であったか大きく左右される。旅先で出会った人、長く音信のと絶えていた友、今年はおおくと毎年書き送る人、年に一度の賀状という「贈り物」のやりとりは新しい年へ一歩踏み出す私に大きな力を与えてくれる。今年も多くの人の出会いがあるだろうが、いかなる時も失礼なきよう誠意をもつて対応しなければと思う。はお

年賀状